

建築史 (History of Architecture II)

担当教員名	東野 アドリアナ	
学科・専攻, 科目詳細	建築学科 4年 前期 1単位 講義	
学科のカリキュラム表	専門科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	専門工学科目 専門応用系	
学習・教育目標	共生システム工学	B-2(50%) C-1(20%) H-1(30%)
	JABEE基準1(1)	(a)(b)(d)
科目の概要	<p>建築史2では古代から近世までの西洋建築について講義する。講義の特色は豊富な映像教材とバイリンガル(英/日)の解説で、できるだけビジュアルに西洋建築のイメージを掴んでもらう。</p> <p>また理念を表現する造形とそれを成立させる技術も合わせて講義する。映像が中心のため英語力が特別に高くなくても良い。単語と映像を直接的に結ぶ方法で、建築史の専門用語を身につけてください。</p>	
テキスト(参考文献)	<p>Michael Fazio 他 「A World History of Architecture」 Laurence King Publishing 参考図書：陣内 秀信他著「図説 西洋建築史」彰国社、日本建築学会「西洋建築史図集」彰国社</p>	
履修上の注意	<p>2学年で修得した日本建築史を念頭において、西洋建築を理解してほしい。作品を知ることが大切。講義では作品の紹介は限られるので、図書館の西洋建築史関係の書籍を利用して欲しい。</p>	
科目の達成目標	<p>1) 講義では西洋史上の建築理念と造形に限定するが、それを通して世界の建築が多様な理念のもとで制作されてきたことを理解する(B-2)。</p> <p>2) 歴史的には建築制作とは創造主の世界の制作を手助けすることと考えられてきた。そこに制作一般の倫理を読み取ることで、現代社会における制作の意義を理解する(C-1)。</p> <p>3) 近代技術以前の自然材を加工し建設してきた技術を学び、現在の構造技術との対比のなかで、その限界性と未来への可能性を理解する(H-2)。</p> <p>建築史2では西洋建築史について学ぶだけではなく、異文化を実感し、留学した気持ちで講義を楽しむ。復習教材としてスライドはネットでも確認でき、Moodleのクイズも利用でる</p>	
自己学習	電子教材などを利用して学習内容を復習すること。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/4以上の欠課
	<p>達成目標1)、2)と3)の評価方法は2回の試験(60%)とレポート(40%)の結果による。</p> <p>試験は英語で実施し、教科書やプリントの図を中心にまとめ、自筆手書きで作成したレジュメを持ち込み可能とする。自作のレジュメも評価に含む。レポートは西洋の造形理念を理解し、講義の理解度と観察の的確性で評価する(B-2、C-1)。(50%)</p> <p>西洋建築史上の代表的な建築の意匠と空間構成を理解し、基本的な造形と技術の用語をマスターしているかどうか(H-2)。(50%)</p> <p>総合的な評価が60%以上であるものを合格とする。</p>	
連絡先	adriana@akashi.ac.jp	

授業の計画・内容	
第1週	Pre-historic and Ancient Architecture 前史・古代文明の建築:前史時代古代メソポタミア・エジプトの宗教と建築。
第2週	Architecture of Ancient Greece 1 古代ギリシアの建築と造形理念
第3週	Architecture of Ancient Greece 2 ギリシャ神殿建築の変遷と古典期の神殿
第4週	Ancient Roman Architecture 古代ローマの建築:大空間の建設、植民都市の形態の意味と住居、フォーラム、闘技場、バシリカ、劇場など都市施設
第5週	Roman Houses ,Domus, Insula and Villa and cities 古代ローマの住居: 各階級の住居とそれぞれの平面構成、意匠 とローマの都市計画、施設、ローマ人の生活スタイル
第6週	Early Christian and Byzantine Architecture 初期キリスト教建築とビザンチン建築の理念と造形:バジリカ形式教会の成立、ペンデンティブドーム、ハギア・ソフィア大会堂
第7週	Islam Architecture イスラム建築の理念と造形: モスクと宮殿の構成、グラナダの大モスクとアルハンブラ宮殿
第8週	(中間試験)
第9週	Carolingian Renaissance and Romanesque Architecture ローマ帝国滅後のシャルレマグヌスによる文化・教育改革と修道院建築の誕生。ロマネスクの語義、ヴォールト構造の改良
第10週	The Gothic Experiment : " The French Style " フランス・ゴシック建築の技術と造形: ゴシック教会堂の社会的役割、様式、構造の仕組み、光の象徴性と高さへの志向
第11週	The Gothic Experiment: England, Germany, Italy イギリス、ドイツとイタリアのゴシック建築の技術と造形
第12週	Early Renaissance イタリア初期ルネサンス: 建築家の誕生、ブルネルレスキとフィレンツェ大会堂ドームの技術、アルベルティの建築造形論
第13週	High Renaissance: The Grandeur of Rome イタリア盛期ルネサンスとマニエリスム: プラマンテのテンピェット、ミケランジェロの非古典的な意匠と独創性
第14週	Baroque: Harmony and Spectacle バロク建築: サン・カルロ教会堂の造形、サン・ピエトロ大寺の建設過程、ローマ・カソリックと絶対王政の建築
第15週	Rococo: The Flowering of Late Baroque バロク建築; 16世紀から18世紀のフランス、ドイツ、スペインへの広がりと作品紹介
期末試験	